

宮園祐美子 議員



質問 学校体育館の空調整備について

国もこの体育館空調整備について加速化に向けて必要な経費を計上し、臨時特例交付金が創設されたが、①直方市の設置に向けての計画等はあるか②設置工事を行う場合、市内小（11校）、中学校（4校）どのように進めていこうとお考えか③最終的に何年度に工事完了をお考えか。国は令和17年度までに全国の学校の空調整備設置目標を95%と定めている。この交付金の期間は今令和15年度までである。早急に取り掛かったとしても工事完了は4～5年かかるかと思われるため、1日も早く学校体育館の空調設置をお願いしたい。



答弁 近年の猛暑や酷暑による児童・生徒の健康への影響、避難所としての環境整備なども進める必要があることから空調設備の必要性は十分に認識しているが、現在具体的な計画策定までには至っていない。

仮に設置するとした場合、避難所としての配置のバランス、中学校部活動における熱中症対策等を考慮し、市内4つの中学校に先行して設置していくことが考えられる。令和6年12月下旬に空調整備のメニューが示される以降、情報の収集と設置の可能性についての検討を行っているが、市全体として、予算の調整の上、事業を決定していく必要があるため、現時点では工事完了時期をお答えすることはできない。

安永浩之 議員



質問 新幹線新駅の設置について

筑豊地区の新幹線新駅設置に関して、直方商工会議所新春挨拶会の市長挨拶の折に、今年度末までに期成会の準備会を立ち上げ、来年度予算に調査事業を計上するとの話があった。詳細な内容を確認するとともに、周辺自治体への波及効果について問う。

答弁 経済・社会動向に関する調査や関係者への意向調査、類似事例調査等を実施する予定としている。新駅設置や周辺開発に伴う効果については、新年度事業の中で調査を進めていきたい。

質問 産業団地の取組について

県事業として行われている植木地区の「直方・鞍手

新産業団地」への企業誘致状況を確認し、新たな工業用地を策定するための調査委託業務についても進捗を問う。

答弁 企業誘致について福岡県から確定的な情報は入っていないが、情報共有を密に進めていく。工業団地適地調査は、16か所程度の候補地から、現在4か所程度の概略開発計画案を作成している。

質問 防犯カメラの整備と公園管理事業について

昨年の6月定例会で質問した「防犯カメラの独自補助金創設」と「地域や企業と連携した公園管理事業」について、進捗状況を問う。

答弁 防犯カメラ補助は令和7年度より実施。公園管理事業について施設の一元管理の方向で検討が必要であると考えている。企業との連携については来年度以降、調査研究を行い導入を検討していく。

森本裕次 議員



質問 小・中学校統廃合のスピード感について

本市小・中学校児童生徒数は減少の一途であり、子供の健全育成に様々な支障を来している。この解消を目指し規模適正化基本計画検討委員会が発足、「規模適正化推進係」新設、その実務を担う。その推進に当たり、結論時期を明確にするとともにスピード感を持つたものになっているのかを問う。

答弁 学校規模適正化の取組は、学校統廃合を必ず行うという前提で行っているものでなく、統廃合の時期は未定である。現在、直方市学校規模適正化基本計画の検討を進めており、決定後に直方市学校施設等長寿命化計画の見直しと、学校規模適正化個別計画の作成に取りかかりたい。

質問 いこいの村財産処分のスピード感について

いこいの村運営会社（株）

直方が廃業し3年半近くが経過した。その間、市有財産である本土・建物に放置状態であり、犯罪が起きてもおかしくない環境下である。この財産を早急に処分することは地域経済の発展、本市財源の確保という観点から重要といえる。市組織「事業推進担当参事」が新設されたが、その推進に当たり、結論時期を明確にし、スピード感を持って業務に当たるのかを問う。

答弁 豊かな自然環境がある福智山麓は市として戦略的に活かすべき資源と考えている。いこいの村の跡地活用は、福智山麓全体のコンセプトの中で、この方向性に合致する民間企業へ売却を行いたい。新年度は担当参事を配置することから、

スピード感をもって、活用に向け努力していきたい。



草野知一郎 議員

質問 直方市体育館、小・中学校体育館の空調設備について

地震や集中豪雨時の避難生活の大変さは、報道等により注目されることが増えてきたが、本市体育館や市立小・中学校を避難所と想定した場合の空調設備の設置計画について問う。

答弁 本市体育館の構造上の特性等を考慮し、設置可能な空調の容量調査や非常電源、キュービクルの増設等について調査している。設置価格の高騰、納期や工期の長期化といった問題も考えられる。体育館の建て替えも視野に入れる必要があり、空調設備の規模や時期も含め継続して検討している。

質問 歴史資料館建設について

本市にはいわゆる歴史資料館は存在しないが、半世

紀ほど前に建築家磯崎新氏とその完成予想図を描いたという記録が残っている。その経緯と今後の建設計画について問う。

答弁 磯崎新氏が作成した平面図や立面図などが本市に保管されているが経緯は不明である。現在、文化施設、体育施設等、老朽化した施設の改修や維持という喫緊の課題があり、その着手順位の中に歴史資料館のような新たな工程をどう盛り込めるかということも整理すべき課題だと考えている。

質問 中学部活動地域移行について

中学部活動の地域移行については、令和6年度から段階的に進めていくという答弁を昨年度得ていたが、現在の進捗状況と今後の計画及び課題について問う。

答弁 検討協議会において、学校部活動は将来的に完全に地域にシフトすることを目指す方針に至った。令和10年度までに休日の部活動を、令和13年度までに平日の部活動を地域にシフトすることを目指す。活動の受け皿となる組織や指導者となる人材、支援体制及び財政面の確保等が課題である。



澄田和昭 議員

質問 直方市立学校再編について

- ① 今日までの経過について
- ② 過去の方針は生かされるのか
- ③ 近隣（特に直鞍地区）の状況について
- ④ 今回の検討委員会の答申を受けての教育委員会としての今後の方針について
- ⑤ 学校再編に対する教育長・市長の考え方と再編を進める課題について

し、その改善策を教育委員会に答申することとなる。教育委員会としては、2度の白紙撤回という過去の反省の上に、行政主体ではなく地域の声を聴きながら丁寧に計画づくりを進めていきたい。また、市としても、教育委員会が答申を受けて策定した計画について、支える側として予算措置等実行していきたい。

答弁 学校再編については、平成25年3月、平成30年2月と2度の白紙撤回をしている。今後、基本計画検討委員会では、将来の詳細な人口推計と多面的な実態を把握した上で、現在及び将来予測される課題を明確化



那須和也 議員



質問 水道水における有機フッ素化合物(PFAS)の今後の対策について

近年、国内では河川や地下水、水道水、さらには人の血液からPFAS(有機フッ素化合物)と呼ばれる化学物質が検出され、健康への懸念が広がっている。市民への安全・安心の水道水を供給する水道事業者としての今後の対策と方向性を問う。

答弁 国では令和8年度からPFOS、PFOAを水道法第4条に基づく水質基準項目に引き上げる法令改正の検討を行っている。基準値が50ng/L、検査頻度が3か月に1回程度となる見込みだが、本市では、法令改正に先駆け、令和7年度から検査回数を現在の年1回から、年4回に増やす予定である。現在のところ、

渡辺克也 議員

質問 直方市の下水道事業について

ろ、本市水道では検出下限値以下であるが、もしもPFOS及びPFOAが検出されたとしても粉末活性炭注入設備により除去が可能である。今後も、水質監視はもとより、国の動向もしっかりと見据え、市民の皆様へ安定して安全・安心な水道水を供給していきたい。

質問 直方市における防犯対策について

昨年末から今年初めにかけて、新入校区の地域の民間の門扉が盗難にあう事件が起こった。以前も下水のグレーチング等の金属が被害にあったこともある。民間的なものではあるが、市としての見回り等の防犯対策についての考えを問う。

答弁 見守り活動を実施することにより、犯罪の抑止効果は高まると考えている。市内における見守り活動として、「防犯パトロール」、「登下校時の子どもの見守り活動」や「独居高齢者に対する見守り活動」があり、市としても警察や各団体等と協力して取り組んでいく。

質問 直方市のコミュニティバス事業について

上頓野から下境を経由するコミュニティバス路線の近くにもち吉の商業施設ができた。この施設は食材だけでなくいろんな業種が入っておりとても便利だが、西鉄バスの乗入れはあるものの、コミュニティバスは乗入れをしていない。この施設への乗り込みはできないのかを問う。

答弁 コミュニティバス上頓野線は、昨年度と比較すると利用者数が減少傾向であり、対策が必要な路線である。一方で、路線が長くなり、運行時間も長くなることで、利用者数が減少する路線があることも事実である。対策の一つとして当該施設への乗入れを検討する項目になると考えている。

答弁 公共下水道の事業計画は、当初平成4年度に策定され、これまで9回の見直しを行い順次区域を拡大してきた。区域の拡大は、既決の事業計画区域内での工事が進み、事業実施可能な箇所が少なくなった場合に、今後5年から7年間で事業を実施する区域を追加している。

渡辺和幸 議員



質問 こども誰でも通園制度(通称)について

この間、「こども誰でも通園制度」の制度化、本格実施に向けた検討会が重ねられ、昨年12月26日に検討会における取りまとめが発表された。現在は試行的実施中のこの制度の令和7年度の制度化と、令和8年度の本格実施に向けたスケジュールと本市としての今後の取組について問う。

答弁 この制度は未就園の0歳児〜2歳児に、家庭以外の人と関わる機会を提供するなどを目的とした支援であり、令和8年度から対象児が利用できるように園等の整備をする必要があるが、制度自体が煩雑で、現場と自治体の負担が大きい

ため、どのように実施すべきか十分検討していく必要がある。

質問 高齢者等終身サポート事業について

全国的に一人暮らしの高齢者世帯が増える中、身近に頼れる親族等がいない場合に、家族等に代わって日常生活の支援や身元保証、亡くなった後の事務処理などを支援する「高齢者等終身サポート事業」を行う事業者が増えている。こうした高齢者の相談窓口や今後の取組等について問う。

答弁 高齢者に関する相談は、地域包括支援センターの総合相談窓口が担当である。しかし、亡くなった後の財産管理等、現在の体制では限界がある。内容に応じて関係機関や民間事業者との連携を図り、サポートができる専門的な知識を持った人材の確保や社会福祉協議会等と連携した体制づくりを検討する。

篠原正之 議員



質問 新幹線新駅の設置に向けた取組及び関連する周辺開発について

- ・新駅の設置に向けた事業を立ち上げる理由
- ・過去の取組との違い
- ・今後の取組の方向性と要点
- ・将来に向けた展望等

答弁 新たな産業、研究開発機能の拠点足りうるのが植木地区であり、「一人の移動」という視点から必要となる装置が新幹線新駅である。九州においては、熊本へのTSMCの立地等、新駅設置を取り巻く環境が、大きく様変わりしてきており、植木地区の持つポテンシャルがさらに顕在化している状況にある。「直方市に、新幹線駅を」という小さな視

点ではなく、事業レベルを大きく格上げしていくことを視野に入れながら、展開していくことが必要だと考えている。大規模な投資には懸念の声もあるが、将来への投資と捉え、市民所得の向上や地域産業の発展に繋げる事業としていきたい。

矢野富士雄 議員



質問 直方市の防犯施策の現状と今後の対策について

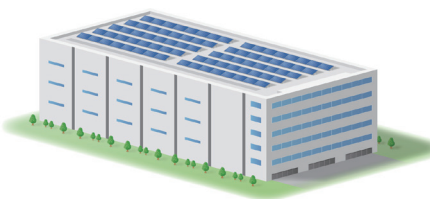
警察庁の犯罪統計によると、刑法犯罪は2002年が戦後最多のピークで、それ以降17年連続で減少し、2021年には5分の1の約57万件まで減少したが、2022年から2年連続で増加に転じた。特殊詐欺が急増し、傷害や窃盗等の街頭犯罪も増えている。それに加え「闇バイト」や小倉で起きた中学生殺傷事件等凶悪事件が多発している。本市は重大事件こそ起きていないが刑法犯遭遇率は高く、福岡県のワースト5に入っている。

そこで国が推進している「防犯まちづくり」「防犯DX化」「再犯防止推進計画」等の市での進捗状況、市の

現状と取組、これからの防犯に対する対策、施策について問う。

答弁 様々な情報伝達手段を活用し、先進的な防犯設備や防犯対策等の防犯に関する情報を発信し、引き続き防犯意識の高揚を図る取組を警察等と連携を図り実施していく。

学校では防犯カメラの設置、来校者への声掛け、地域の協力のもと登下校時の見守り等、対策を行っている。校内に不審者が侵入した場合の対策として、さす又数本を準備し、不審者対応の避難訓練も行っていく。また、犯罪の抑止や子どもの安全の確保に向け、地域の団体等が設置する防犯カメラに対する補助事業を実施し、安全安心に暮らせる施策を実施していく。



岡松誠二 議員



質問 新幹線新駅設置について

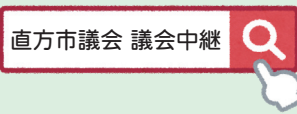
以前は高額な建設費を理由に市は消極的であったが、県による直方・鞍手新産業団地の造成が決まったとはいえ、300億円はかかるであろう建設費を捻出できるのか。2007年に構想凍結した理由を含めて新駅設置の可能性を問う。

【答弁】新幹線新駅の設置に向けては、巨額の経費が必要となってくるというのが現実で、本市単独での実現は、財政的な側面から考えても、依然として大変困難であると考えている。過去には、概算工事費が211億円という多額のものとなり、取組を凍結したという経緯も

あることから、筑豊地区や宗像市、中遠地区、さらには北九州市を含む福岡県中央の縦のラインでの取組としていき、最終的には、県の広域での地域振興事業の位置付けとして取り上げてもらうことが、実現に向けた道筋であると考えている。



インターネット配信ぜひ御覧ください！



▲「直方市公式ホームページ 市議会インターネット中継」

↓
ご希望の内容を選択
↓
見たい動画を再生



▲ 議会中継・録画配信 (YouTube) はこちら

水仙

この「水仙」の欄はコラムであるので、徒然に思うことをそこはかたなく書き綴りたいと思う。毎年のことではあるが、三月定例会の後半は卒業式のシーズンとなる。卒業生は、各々の学校を巣立っていくわけだが、みんなには自己の中に母校並びにこの直方市をアイデンティティとして抱いてもらいたいと思う。そして、各々の道を進み、一度は故郷を離れてもまた直方市に戻って来てくれることを切に願う。

一方、そう思ってもらえる街作りの為に、事に当たっては、責任を持って多くの方と侃侃諤諤議論し、智慧を絞っていかなければと思う今日この頃である。

※本稿執筆は令和7年3月17日



令和7年6月定例会予定

- 6月13日(金) 提案説明
- 14日(土) 休会(休日)
- 15日(日) 休会(休日)
- 16日(月) 一般質問
- 17日(火) 一般質問
- 18日(水) 一般質問
- 19日(木) 一般質問
- 20日(金) 休会(議案考査)
- 21日(土) 休会(休日)
- 22日(日) 休会(休日)
- 23日(月) 質疑
- 24日(火) 委員会
- 25日(水) 委員会
- 26日(木) 委員会
- 27日(金) 採決

・本会議、各常任委員会の開議は、午前10時からです。
・日程、開議時間の変更される場合がありますので、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。